

資料から情報を探す際に、実際に行った図書館の支援

調べ学習の流れ～通常～

- ①課題を設定する。
- ②どんな方法で調べられるか考える。
(インタビュー、実際に調査する、資料から探す、インターネット検索など)
- ②図書館へ行き、分類表などを頼りに、情報がありそうな書架を見つける。
- ③本の書名やラベルを見ながら、気になる本を手にする。
- ④目次などを見て、必要な情報がのっているか見る。
- ⑤情報がのっていたら、情報カードに必要な情報をメモする。
- ⑥出典(著者、書名、出版社、出版年など)を書きぬく。

調べ学習の流れ～今回～

- ①課題を設定する。
- ②どんな方法で調べられるか考える。
(インタビュー、実際に調査する、資料から探す、インターネット検索など)
- ②集められた本の中から、出典リストを参考にしながら、本を探す。※1
- ③本の書名やラベルを見ながら、気になる本を手にする。
- ④目次などを見て、必要な情報がのっているか見る。
- ⑤情報がのっていたら、情報カードに必要な情報をメモする。
- ⑥出典リストを見ながら、出典の部分に番号を書く。※2

※1

自分が必要とする情報がのっている本を探す力も身につけさせたいが、この単元では、整理分類するのにある程度の情報カードの枚数は必要、でも調べる時間は限られている、という条件を踏まえて、今回は児童が調べそうな資料をあらかじめ集めておくことにした。

※2

出典部分の記入は、未学習の漢字の読み取りや記入に苦労したり、同じ本から情報カードを複数枚書く際には、何度も記入しなければならなかったり、情報カードを書き慣れていない4年生の児童には負担が大きいことが予想される。そこで、今回は、出典リストに番号をつけておき、その番号を情報カードの出典部分に書けばいいことにした。これにより、児童の負担はかなり減った。

課題設定が終わった時点で、担任、学校司書、(司書教諭)で集まり、児童が調べたいことが、どの本で調べられそうか、一緒に検討する時間を持った。

- ・調べる際に、困りそうな児童の情報交換。
 - 情報量の多い本が向かない児童には、情報量の少ない本が準備できるか検討。
 - 情報量が多い場合は、本を拡大コピーして読みやすくする。
 - 個別の支援が必要な児童の情報を共有しておく。
- ・どの本に情報がのっているか、一人一人の課題を検討
 - 児童が自力でたどりつかなかったときにアドバイスできるように、児童が到達しそうな情報が載っている本のメモを残しておく。
 - 本に載っている情報量が少ない、課題が狭すぎる児童に対して、困っていたら、広げるためにどんな声かけをするか相談しておく。

★時間の確保は難しいが、この作業ができると、児童の学習の大きな支援になる。

成果と課題